

地域における今後の職業教育機関の在り方とりまとめ（概要）

背景

少子高齢化

- 若者県外流出
- 労働力不足

産業構造の変化

- サービス業拡大等
- 新分野展開

技術革新

- A I ・ I o T
- Society5.0

県内産業における人材ニーズの変化

→知識やスキルの高度化や成長分野に人材需要

雇用情勢等の変化

→人材不足・人手不足 等

地域の産業人材の供給を担う
職業教育機関の在り方も変化

今後の地域産業に求められる人材ニーズ（人材像）

※県内企業の人材ニーズ調査、個別ヒアリング等から分析

ものづくり人材

- ☑ 電機・電子から新分野展開（自動車等）する企業も出てきており、求められる専門分野も多様化
- ☑ 高い技術力をもって新分野展開等する企業が成長
→**企業の技術力を支える「技術者」（開発等）**
(試作を繰り返すものづくりの楽しさが分かる人)
※4年制以上の課程を経た人材を求める傾向

I T 活用人材

- ☑ 独自システムで高いシェアを持つ企業の存在
→システム開発を担う「エンジニア」
- ☑ 県内産業全般の I T 活用による生産性向上や業務改善等の必要性
→**基礎的 I T スキルを有し自社 I T 化を担う人材**
※ I T 専門人材より活用人材に高い人材ニーズ

観光人材

- ☑ 接客サービスの従事者が圧倒的に不足
- ☑ 専門知識等よりも、協調性や職業感を重視
→**質の高いサービス提供を行える人材**
※高卒、短大卒、大卒に関わらず高い採用意欲（人材需要が高い）
※企画・管理業務部門の人材需要は限定的

共通ニーズ 主体性、協調性・チームワーク、課題設定・解決力（変化に対応できる力）、チームリーダーとしての資質
（人材育成）

地域の産業人材育成・確保に向けた職業教育機関の在り方と今後の取り組み

（今後の方向性）

☞ 成長分野における職業教育の充実

成長分野において求められる人材レベルや必要となる知識、スキル、資質を踏まえた人材育成の充実を図り、出口一体型の教育を実施。

☞ 実践的な教育の充実

産業構造の変化や技術革新が起こり続ける中では、専門的な知識の習得もさることながら、変化に対応できる実践力を磨いていくことが重要。

☞ 社会人教育（リカレント教育）の充実

若者のみで人材確保することが困難。また、技術革新の進展や人生100年時代の到来を踏まえ、社会人教育の充実が求められる。

（取り組み）

☑ 成長分野における教育内容の充実

- ・ものづくり人材
- ・I T（利活用）人材
- ・観光人材

☑ カリキュラム検討段階からの県内企業の参画

カリキュラム検討段階から県内産業界が参画できる仕組みづくりを通じて、県内企業の人材ニーズを踏まえた職業教育を実施する

☑ 寄付講座等による新たな「学びの場」

既存の職業教育機関では難しいテーマについて寄付講座等の開設により「学びの場」づくりを推進

☑ 実践的な P B L（課題解決型学習）の充実

正解となる知識やスキルではなく、正解のない課題を通じて、問題解決のプロセスを学ぶ P B L の充実を通じて、実践力を伸ばす職業教育の充実

☑ 社会人が参加しやすい環境づくり

- ・既存支援制度の有効活用等
- ・企業の理解向上
- ・学習コミュニティの形成やeラーニングの活用等の新しい学び

☑ 県内産業・県内企業を知る機会の充実

カリキュラムを通じて県内産業に興味を持ってもらうことと合わせて、インターシップ等既存の取組の充実や相乗効果の発揮を図る

☑ **教える側の人材確保や体制整備** ・教育手法等のベストプラクティスの共有等 ・外部人材（実務家教員等）の活用

☞ 社会情勢の変化や変動する人材ニーズに対応していくためには、既存教育機関において人材ニーズに合わせた教育の充実を図ることが新たな職業教育機関の設置より効果的（産業界の人材ニーズに合わせた実践的な教育の実施等を通じて、地域の職業教育機関において実質的な専門職大学の機能を取り入れていく。）

進め方

Step1 モデル的な取組からスタートさせ段階的に取組を発展 →Step2 地域産業の成長に合わせて更なる充実を目指す